

2024年度
NPO法人 ネットワーク・フェニックス
活動計画書



<http://npo-phoenix.jp>

2024年4月1日～2025年3月31日
(令和6年) (令和7年)

1. 設立趣旨・目的

この法人は、ふるさと長岡が魅力ある街となり、子どもたちが誇りを持って育っていきけるような様々な活動を行い、全国へ向け発信することによって、新潟県全体の経済を活気付け、新しい長岡のブランドの創設を図り、地域経済の発展に率先して貢献する事を目的とする。

訪れる人にとって魅力的な街であること
それは、子どもたちが誇りをもって暮らせる街
そして、創り出せるのは唯一我々の思いから・・・

2. 本年度活動方針

『守るべきものを守り、変えるべきものを変える』

～震災20年の節目を迎え、これからもフェニックス花火をそして長岡を発展させるために～

前項にある不変の目標である設立趣旨を基本として当法人の3つの柱の事業である

【長岡花火発信事業】・【花火打上支援事業】・【プロジェクト事業】

について「守るべきものを守り、変えるべきものを変える」という姿勢で、今の時代の環境変化に対応し、活動して参ります。

今年の新潟県中越大震災から20年の節目となる年となりました。そして、20歳以下の人々はすでに震災を実際に体験しておらず、なぜフェニックス花火が生まれたか知らない人も増えている現状となりました。私たちは、当時の記憶が年々薄れていくことに危機感を持ち、決して新潟県中越大震災の事、そしてフェニックス花火を風化させてはいけないとこの節目の年に決意を新たにし、20年企画などを考えておりました。そんな年の初め、1月1日に能登半島地震が発生しました。私たちは被災された石川・能登の皆さんの少しでも力になりたいという想いで、1～2月に延べ4回、炊き出しボランティアを行いました。この節目の年に発生した震災。今年フェニックス花火は石川・能登の方々も元気にするような花火にしたい。そして、これからもフェニックス花火は震災・災害で傷ついた人々を元気にしていく存在として、打ち上げ続けていかないといけないという使命を感じ、これからも活動をしていきたいと思っております。

3. 活動概要

(1) フェニックス花火打上支援事業

〈1〉「長岡花火発信事業」～長岡の誇りを次世代に～

戦災や自然災害からの復興を遂げた長岡市。その復興魂から生まれた長岡まつり大花火大会やフェニックス花火を築き上げた先人たちの心を、我々は次代を担う子どもたちに出張授業という形で伝えて参りました。本年は震災から 20 年の節目の年。昨年までと比べ、学校からの要請も少しずつ増加して参りました。前年度より着手を始めた映像などのツールの刷新を実施し、現在の学校教育の実態に合わせタブレットへの配信など現状に即したやり方を実施して参ります。

【具体的重点事項】

- ・学校での出張授業の再構築
- ・インターネット・SNS などを活用した情報発信の検討
- ・(一財)長岡花火財団発行の書籍・DVD などの管理

〈2〉「花火打上支援事業」

～震災から 20 年の節目にフェニックス花火の理念を広く伝播する～

① フェニックス花火協賛金募金事業

2004 年 10 月 23 日の新潟県中越大地震からの一日も早い復興を祈願し、またご支援いただいた多くの方々への感謝のシンボルとして「復興祈願花火フェニックス」と題し、世界一として誇れるような壮大な規模の花火を打ち上げ実現することができました。

フェニックス花火はこのように生まれ、今や長岡まつり大花火大会の目玉である花火とまでになりました。しかし、フェニックス花火がご協賛頂いたお一人お一人の募金によって打ち上がっている花火であるという事は年々風化しているように感じます。その結果、年々協賛金額が減少の一途をたどっております。

その事に危機感を持ち、今年度は新たな取組として「クラウドファンディング」を実施します。クラウドファンディングの取り組みを通じて、市外、県外の多くの方々へ、長岡花火の事、フェニックス花火の事を広く知っていただき、一人でも多くの方々に応援していただく事を目的としています。

お一人お一人の想いを乗せて打ち上がるからこそフェニックス花火には感動があるのだと思います。震災から 20 年の節目にその想いを今年度は今まで以上に広く伝えて参ります。

【具体的重点事項】

- ・クラウドファンディングなど新たな取組による募金の意義の伝播
- ・キャッシュレス化・アフターコロナなど現状の変化に即した募金活動の模索
- ・募金活動による目標の明確化による、積極的な募金活動の実施

② 長岡まつり大花火大会フェニックス席の設営・運営業務

長岡まつり大花火大会会場のフェニックス席は、大学生を中心としたボランティアスタッフにより、設営・運営しております。ただ当日の人員としてのボランティアではなく、県内外から集まる大学生ボランティアに長岡の誇りである花火とフェニックス花火の想いを広く伝え、当日の活動への協力がフェニックス花火の協賛につながっている事を理解してもらう事に意義があるものと考えております。

今年度も IVUSA(NPO 法人国際学生ボランティア協会)、長岡造形大学の学生を軸とし、更に新たなボランティアの輪を広げ、多くの若い世代にフェニックス花火の想いを伝えて参ります。

③ 「復興祈願花火フェニックス2024 20thバージョン」の打上支援

今年のフェニックス花火は20thバージョンとして、石川・能登の方々を元気にする花火として、冒頭 2015 年に能登半島が舞台の連続テレビ小説「まれ」の主題歌で、現在能登半島地震の「復興のメロディー」となっている「希空～まれぞら～」を使用したミュージック花火を打ち上げ、その後「Jupiter」を使ったフェニックス花火を打ち上げる計画を進めております。

私たちは「ジュピター」に乗せて打ち上げた「フェニックス」に復興への歩みを後押しされました。長岡花火を通して私たちだからできることは、ご覧いただく観客の皆さんと一緒に能登に想いを寄せ、復興を願うエール花火をこの応援歌とともにという想いで打ち上げたいと考えております。

この「希空～まれぞら～」を歌っていただくのは、長岡少年少女合唱団の皆さんです。また、私たちの願いとすれば、その歌声に合わせて、当日ご来場いただいた多くの観覧者様にも、一緒に歌って欲しいと思います。長岡から能登に元気と勇気を発信したい。そしてこれからの復興の力になって欲しい。そう願っております。

今年のフェニックス花火で、震災で傷ついた能登の方々に元気を与えたい。そしてこれからもフェニックス花火は復興と平和のシンボルとして日本を元気にする存在としたい。その想いで活動して参ります。

【具体的重点事項】

- ・ボランティア活動を通じた学生への情報提供、連携の在り方の模索

- ・他大学、学生以外のボランティアスタッフの呼びかけの検討
- ・当日のオペレーションの再構築

(2) 「プロジェクト事業」～事業を通じた地域の活性化への寄与～

長岡には長岡花火をはじめ、歴史、文化、自然、景観、特産物など多くの地域資源を有しております。これらの地域資源を発掘し、光を当てることにより地域の魅力や価値の向上を図り、更なる地域の活性化を目指します。その活動を通じて様々なネットワークを構築し、地域を盛り上げて参りたいと考えます。

- ・おもてなし事業
(長岡まつり大花火大会フェニックス席での飲食ブースの設営)
 - ・その他新規事業の模索・検討
 - ・フェニックス関連グッズなどの開発販売
- ※長岡米百俵フェスは今年の開催はなし。**

(3) 「中心市街地活性化事業」(まちなか情報発信事業)

・大型LEDビジョン「まちかどフェニックスビジョン」を活用した情報発信を行って参ります。(長岡まつり・ホコ天などでの活用、地域企業のPRや商品・イベント情報の発信ツールとしての活用ルートの模索など)

(4) 「委託運営・ソリューションサービス事業」

・市民、行政、企業が求めるサービス・事業が多様化する中、様々な問題の解決や要求の実現を行うための事業・活動を行って参ります。